

第3表 生育・収量調査

		7月18日		出穂期 (月・日)	成 熟 時			わら重 (Kg/a)	精粗米 (Kg/a)	精玄米重 (Kg/a)	登熟歩合 (%)
		草丈 (cm)	茎数 (本/株)		稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/株)				
水	マルチ	51.7	24.6	8.30	72.8	17.4	24.2	120.7	26.9	21.8	23.7
口	無マルチ	56.7	26.3	9.4	69.3	16.1	24.4	124.2	17.8	11.3	13.5
中	マルチ	66.4	29.5	8.19	81.5	18.2	22.7	129.0	57.1	47.1	54.4
央	無マルチ	67.5	29.3	8.23	79.6	17.6	22.4	138.0	38.5	31.3	35.3
水	マルチ	70.0	25.7	8.13	83.3	19.0	19.8	87.4	78.6	64.3	79.5
尻	無マルチ	65.7	21.8	8.17	76.0	18.6	17.4	84.6	67.2	55.5	78.4

(52年 秋田農試, 大館分場)

品種: トヨニシキ

成苗, 6月3日移植

栽植密度 30 cm × 15 cm 22.2株/m² 2本植

水口……水口から1.3~2.6 m
 中央…… " 5.3~6.5 m
 水尻…… " 9.4~10.6 m

8 水稻除草剤の実用化について(農試県南分場)

A パウナックスM粒剤

(シメトリン・MCP-B粒剤)

(1) 対象雑草名: ノビエ, マツバイ, 他1年生雑草, ヘラオモダカ, ウリカワ

(2) 有効成分: シメトリン1.5% (BCP-B 1.0%)

(3) 毒性: 魚毒性B類

(4) 特性

シメトリンとMCP-Bの混合剤で両剤の相乗効果により, ノビエ, マツバイ, その他1年生雑草のほかヘラオモダカ, ウリカワにすぐれた除草効果を発揮する。ホタルイに対しては2葉期までで, 使用幅はやや狭い。

(5) 使用基準

薬剤名	使用時期	使用量	適用草種	適用土壌	適用地帯
シメトリン・M CP-B粒剤	稚苗移植後 20～25日	3kg/10a	ノビエ, マツバ, その他1年生雑 草, ホタルイ, ヘラオモダカ	壤土～ 埴土	県下全域
	成苗移植後 15～20日		ノビエ, 1.5葉, ホタルイ2葉, ヘラ オモダカ2葉まで	減水深 2mm/日以下	

(6) 普及上の留意点

ノビエ, ホタルイに除草効果の高い初期除草剤との体系で使用し, ノビエ1.5葉期までに湛水のまま散布し, 散布後2～3日は湛水に保ちできるだけ水を移動させないこと。早期散布(水稻5葉以前)の場合, 散布後異常高温(30℃以上)や16℃以下の低温が予想される場合は薬害の危険があるので使用をさけること。砂質土の水田, 漏水田では使用しないこと。

また魚毒性はBランクであるため, 通常の使用法では問題ないが一時に広範囲に使用する場合は十分注意すること。

(7) 主要成果の具体的データ

場所	栽培 年次	試験別			除草効果(無除草比)			薬害	水稻調査		
		除草剤名	時期	量	1年生	多年生	合計		出穂期	m ² 当 穂数	収量 指数
県 南 分 場	稚	X-52シメトリンMCP-B	+3～+20	300～300	t	10	1	ロ-ル葉 ビ	8.13	434	108
		"	+3～+20	300～400	t	8	1	"	"	517	117
		"	+3～+25	300～400	1	8	2	"	"	425	109
		X-52B・3015S	+3～+20	300～300	t	12	1	△	"	480	103
	苗	52	X-52シメトリンMCP-B	+3～+25	300～300	1	11	2	ビ	8.7	438

注: tはtrace(微量)の略

展示ほにおける成績

年次	展示 場所	栽培 法	初・期 除草剤			中 期 除草剤			薬害	総合 判定	備 考
			薬剤名	時期	量	薬剤名	時期	量			
5.2	盛岡	中		-2	300	シメトリン	+25	300	無	A	
	遠野	稚	X-52	-3	"	MCP-B	+27	"	"	B	
	釜石	中		-4	"		+21	"	"	A	
5.1	紫波	稚		-3	300	シメトリン	+25	300	無	A	
	北上	"	X-52	-4	"	MCP-B	+20	"	"	A	
	遠野	"		-4	"		+29	"	"	B	中期処理時期おくれる